



## 8.6 オンプレミス環境のセットアップ

この章は、Cisco Unified Communications Manager バージョン 8.6 以下と Cisco Unified Presence との環境設定の手順についてのタスクベースの情報を提供します。



(注)

Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence のインストールと設定に関わるすべてのタスクの情報については、このマニュアルでは説明していません。この章の目的は、Cisco Jabber for Windows の環境をセットアップするために完了しなければならないタスクの高レベルなワークフローを提供することにあります。詳細や、配置固有のインストールと設定を行っていることを確認するには、環境内のさまざまなコンポーネントのマニュアルを参照してください。

### 前提条件

この章のタスクを実行する前に、次の操作が完了している必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager のインストールおよび設定。
- Cisco Unified Presence のインストールおよび設定。



メモ

Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence のインストール時には、サーバ間の通信を有効にするために必要な詳細情報を指定する必要があります。通信には、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence の在席ステータスの同期を行う SIP パブリッシュ トランクが含まれます。

- [セットアッププロセスの確認, 2 ページ](#)
- [必須サービスの有効化と開始, 3 ページ](#)
- [環境にディレクトリを追加する, 3 ページ](#)
- [TFTP サーバの準備, 5 ページ](#)
- [インスタントメッセージングとプレゼンスのセットアップ, 5 ページ](#)

- [ユニファイドコミュニケーションのセットアップ](#), 11 ページ
- [ボイスメールのセットアップ](#), 25 ページ
- [Cisco WebEx Meeting Center と統合する](#), 30 ページ
- [Microsoft Office との統合に関する設定を行う](#), 36 ページ

## セットアッププロセスの確認

このトピックは、Cisco Unified Communications Manager バージョン 8.6 以下で環境をセットアップするプロセスの高レベルの概要を提供します。

### 手順

- 
- ステップ 1** 必須サービスを有効化し、開始します。  
Cisco Unified Presence 上で必須サービスが有効であり、かつ実行されていることを確認する必要があります。これらの必須サービスにより、Cisco Jabber for Windows で必要となるさまざまな機能が実現されます。
- ステップ 2** 環境にディレクトリを追加します。  
環境にディレクトリを追加すると、次のような処理が行われます。
- ディレクトリ サーバ上に保存されているユーザーデータが Cisco Unified Communications Manager データベースに格納される。
  - プロファイルに追加したり、さまざまな機能をプロビジョニングしたりする環境内のユーザーを Cisco Unified Communications Manager で管理できるようにする。
- ステップ 3** TFTP サーバを準備します。  
Cisco Jabber for Windows では TFTP サーバから設定内容が取得されます。Cisco Jabber for Windows からそれらの設定内容を取得できるようにするためには、Cisco Unified Presence 上で TFTP サーバの IP アドレスを指定する必要があります。
- ステップ 4** インスタント メッセージングとプレゼンスをセットアップします。  
インスタントメッセージングとプレゼンスをセットアップし、配置を開始します。チャットと在席ステータスの機能のセットアップに成功した後は、他のサービスを追加し、音声、ビデオ、ボイスメールなどの追加機能をセットアップすることで、配置を構築できます。
- ステップ 5** (任意) ユニファイドコミュニケーションをセットアップします。
- ステップ 6** (任意) ボイスメールをセットアップします。
- ステップ 7** (任意) Microsoft Office との統合に関する設定を行います。
-

## 必須サービスの有効化と開始

必須サービスを通じて、サーバ間の通信が可能になるほか、Cisco Jabber for Windows に対してさまざまな機能が実現されます。

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified Presence Servicability) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [ツール (Tools) ] > [コントロールセンターの機能サービス (Control Center - Feature Services) ] を選択します。
- ステップ 3** [サーバ (Server) ] ドロップダウン リストから適切なサーバを選択します。
- ステップ 4** 次の各サービスが開始され、かつ有効になっていることを確認します。
- Cisco UP SIP Proxy
  - Cisco UP Sync Agent
  - Cisco UP XCP Authentication Service
  - Cisco UP XCP Connection Manager
  - Cisco UP Presence Engine
- ステップ 5** [ツール (Tools) ] > [コントロールセンターの機能サービス (Control Center - Feature Services) ] を選択します。
- ステップ 6** [サーバ (Server) ] ドロップダウン リストから適切なサーバを選択します。
- ステップ 7** Cisco UP XCP Router Service が実行されていることを確認します。
- 

### 次の作業

必要に応じて、その他のサービスも開始します。利用可能なサービスを確認したり、現在の展開においてその他のサービスが必要かどうかを判断したりする場合は、Cisco Unified Presence に関する適切なマニュアルを参照してください。

## 環境にディレクトリを追加する

環境にディレクトリを追加すると、ディレクトリサーバ上に保存されているユーザデータが Cisco Unified Communications Manager データベースに格納されます。この処理が完了すると、プロファイルに追加したり、さまざまな機能をプロビジョニングしたりする環境内のユーザを Cisco Unified Communications Manager で管理できるようになります。

## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [システム (System) ] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System) ] を選択します。  
[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [LDAP システム情報 (LDAP System Information) ] セクションに移動します。
- ステップ 4** [LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server) ] を選択します。
- ステップ 5** 次の各ドロップダウンリストから適切な値を選択します。
- LDAP サーバタイプ (LDAP Server Type)
  - ユーザ ID の LDAP 属性 (LDAP Attribute for User ID)
- ステップ 6** [システム (System) ] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory) ] を選択します。
- ステップ 7** [新規追加 (Add New) ] を選択します。  
[LDAP ディレクトリ (LDAP Directory) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 8** [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory) ] ウィンドウで必要な詳細情報を指定します。  
指定できる値および形式の詳細は、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「LDAP Directory Configuration」というトピックを参照してください。
- ステップ 9** [保存 (Save) ] を選択します。
- ステップ 10** [完全同期を今すぐ実施 (Perform Full Sync Now) ] を選択します。
- (注) 同期プロセスの完了までに要する時間は、ディレクトリ内のユーザの数によって異なります。ユーザ数が数千にもなる大規模なディレクトリの同期を実施する場合、そのプロセスにはある程度の時間がかかると予想されます。

ディレクトリ サーバのユーザ データは、Cisco Unified Communications Manager データベースに同期されます。さらにそれらのユーザ データは、Cisco Unified Communications Manager によって Cisco Unified Presence データベースに同期されます。

---

## 次の作業

ディレクトリ内のユーザが Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Presence において有効かどうかを確認します。

ディレクトリ内のユーザが有効なユーザのリストとして返されれば、環境にディレクトリを正しく追加できたことになります。

## 関連トピック

[『Configuring Cisco Unified Communication Manager Directory Integration』](#)

[「LDAP Directory Configuration」](#)

[『Cisco Unified Presence』の「Integrating the LDAP Directory」](#)

## TFTP サーバの準備

Cisco Jabber for Windows は TFTP サーバから設定とデバイス設定を取得します。Cisco Jabber for Windows からそれらの設定内容を取得できるようにするためには、Cisco Unified Presence 上で TFTP サーバの IP アドレスを指定する必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application) ]>[Cisco Jabber][設定 (Settings) ] の順に選択します。  
(注) Cisco Unified Presence のバージョンによっては、パスは次のようになります。[アプリケーション (Application) ]>[Cisco Unified Personal Communicator]>[設定 (Settings) ]。  
[Cisco Jabber の設定 (Cisco Jabber Settings) ]Cisco Jabber Settings ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** 次のセクションの 1 つで TFTP サーバを指定するフィールドを探します。セクションは、Cisco Unified Presence のバージョンにより異なります。
- Cisco Jabber のセキュリティ設定 (Cisco Jabber Security Settings)
  - CUPC グローバル設定 (CUPC Global Settings)
- ステップ 4** 次のフィールドで、プライマリおよびバックアップの TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
- プライマリ TFTP サーバ (Primary TFTP Server)
  - バックアップ TFTP サーバ (Backup TFTP Server)
  - バックアップ TFTP サーバ (Backup TFTP Server)
- ステップ 5** [保存 (Save) ] を選択します。
- 

## インスタントメッセージングとプレゼンスのセットアップ

インスタントメッセージングとプレゼンス機能は Cisco Jabber for Windows の基本機能です。ユーザはインスタントメッセージの送受信と共に、在席ステータスを公開および表示できます。

インスタントメッセージングとプレゼンスをセットアップし、配置を開始します。チャットと在席ステータスの機能のセットアップに成功した後は、他のサービスを追加し、音声、ビデオ、ボイスメールなどの追加機能をセットアップすることで、配置を構築できます。

## メッセージングの設定の有効化

このタスクの手順を実行して Cisco Unified Presence でインスタント メッセージングを有効にし、インスタント メッセージングの設定を指定します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [メッセージング (Messaging) ] > [設定 (Settings) ] の順に選択します。
- ステップ 3** 次のオプションを選択します。
- インスタント メッセージを有効にする (Enable instant messaging)
  - クライアントでのインスタント メッセージ履歴のログ記録を可能にする (Allow clients to log instant message history)
- ステップ 4** [保存 (Save) ] を選択します。
- 

### 関連トピック

[「How to Configure the Instant Messaging Settings on Cisco Unified Presence」](#)

## 機能割り当ての指定

このタスクの手順を実行し、Cisco Jabber for Windows ユーザにインスタント メッセージングとプレゼンス機能を提供します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [システム (System) ] > [ライセンス (Licensing) ] > [機能割り当て (Capabilities Assignment) ] の順に選択します。  
[機能割り当ての検索と一覧表示 (Find and List Capabilities Assignments) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [機能割り当てを次の条件で検索 (Find Capabilities Assignment where) ] フィールドに適切なフィルタを指定し、[検索 (Find) ] を選択してユーザの一覧を取得します。
- ステップ 4** 対象のユーザをリストから選択します。

[機能割り当ての設定 (Capabilities Assignment Configuration) ] ウィンドウが開きます。

**ステップ 5** [機能割り当ての設定 (Capabilities Assignment Configuration) ] セクションで次の両方を選択します。

- CUP を有効にする (Enable CUP)
- CUPC を有効にする (Enable CUPC)

**ステップ 6** [保存 (Save) ] を選択します。

---

## プレゼンス サブスクリプション要求のプロンプト設定

社内の連絡先からのプレゼンス サブスクリプション要求のプロンプトを有効、無効のいずれかにすることができます。

Cisco Jabber for Windows は、社外の連絡先からのプレゼンス サブスクリプション要求には、ユーザに許可を求めるプロンプトを常に表示します。

ユーザは、Cisco Jabber for Windows のプライバシー設定を次のように指定します。

### 社内 (Inside Your Organization)

Cisco Jabber for Windows ユーザは社内の連絡先を許可するかブロックするかを選択できます。

- ユーザがプレゼンス サブスクリプション要求を許可することを選択し、
  - [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにする (Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval) ] を選択した場合、Cisco Jabber for Windows はユーザにプロンプトを表示せずに、すべてのプレゼンス サブスクリプション要求を自動的に許可します。
  - [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにする (Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval) ] を選択しない場合、Cisco Jabber for Windows はすべてのプレゼンス サブスクリプション要求でユーザにプロンプトを表示します。
- ユーザが連絡先をブロックすることを選択した場合、既存の連絡先のみがそれらのユーザの在席ステータスを参照できます。つまり、ユーザのプレゼンスにサブスクライブ済みの連絡先のみが在席ステータスを確認できます。



(注) 組織内で連絡先を検索する際は、組織内のすべてのユーザの一時的な在席ステータスが表示されます。しかし、ユーザ A がユーザ B をブロックした場合、ユーザ B には、検索一覧内のユーザ A の一時的な在席ステータスは表示されません。

### 社外 (Outside Your Organization)

Cisco Jabber for Windows ユーザは、社外の連絡先に対する処理を次のオプションから選択できます。

- Cisco Jabber for Windows がプレゼンス サブスクリプション要求ごとにプロンプトを表示する。
- 既存の連絡先のみが在席ステータスを参照できるよう、すべての連絡先をブロックする。つまり、ユーザのプレゼンスにサブスクライブ済みの連絡先のみが在席ステータスを確認できます。

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [プレゼンス (Presence) ] > [設定 (Settings) ] の順に選択します。



[プレゼンスの設定 (Presence Settings) ] ウィンドウが開きます。

- ステップ 3** [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンス ステータスを表示できるようにする (Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval) ] を選択し、プロンプトを無効にして、社内からのすべてのプレゼンス サブスクリプション要求を自動的に許可します。  
このオプションには、次の値があります。

#### オン

Cisco Jabber for Windows はプレゼンス サブスクリプション要求ではユーザにプロンプトを表示しません。Cisco Jabber for Windows はユーザにプロンプトを表示せずに、すべてのプレゼンス サブスクリプション要求を自動的に許可します。

#### クリア済み

Cisco Jabber for Windows はユーザが許可するかどうかのプロンプトを表示します。この設定では、ユーザの在席ステータスを社内のほかのユーザが見られる状態である必要があります。

- ステップ 4** [保存 (Save) ] を選択します。
- 

## 連絡先リストの一括インポート

一括管理ツール (BAT) を使用して、連絡先リストを Cisco Unified Presence にインポートできます。

連絡先リストの一括インポートの手順については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence Release 8.6*』の「*Bulk Import of User Contact Lists*」を参照してください。

#### 関連トピック

[「Bulk Import of User Contact Lists」](#)

## 予定表イベントに対する自動在席ステータスの有効化

予定表イベントのプレゼンス状態の自動更新を有効にするには、Cisco Jabber for Windows ユーザは [Cisco Unified Presence ユーザ オプション (Cisco Unified Presence User Options) ] インターフェイスで個別に設定を有効にする必要があります。

**重要**

- この設定はデフォルトでは無効になっています。
- このリリースでは、各 Cisco Jabber for Windows ユーザが配置後に設定を個別に有効にする必要があります。複数のユーザの設定を、管理者が一括タスクとして有効にすることはできません。

サポート済みブラウザを含めた [Cisco Unified Presence ユーザ オプション (Cisco Unified Presence User Options)] インターフェイスの詳細については、対応する Cisco Unified Communications IM and Presence マニュアルを参照してください。

このトピックは、予定表イベントの自動プレゼンス状態更新を有効にするために、Cisco Jabber for Windows ユーザが配置後に実行しなければならないタスクについて説明します。

**手順**

- ステップ 1** 次の手順を実行し、Cisco Jabber for Windows ユーザに提供する必要のある情報を収集します。
- [Cisco Unified Presence ユーザ オプション (Cisco Unified Presence User Options)] インターフェイスの URL を決定します。  
URL のフォーマットは次のとおりです。  
`https://server_name:port_number/cupuser/showHome.do`
  - 対象の Cisco Jabber for Windows ユーザに [Cisco Unified Presence ユーザ オプション (Cisco Unified Presence User Options)] インターフェイスの URL とクレデンシャルを提供します。
- ステップ 2** Cisco Jabber for Windows ユーザに次の手順を実行するように指示します。
- [Cisco Unified Presence ユーザ オプション (Cisco Unified Presence User Options)] インターフェイスにログインします。
  - [ユーザ オプション (User Options)] > [設定 (Preferences)] の順に選択します。  
[初期設定 (Preferences)] ページが開きます。
  - [初期設定 (Preference)] ページの [予定表の設定 (Calendar Settings)] セクションに移動します。
  - [自分のプレゼンスステータスに予定表情報を含める (Include Calendar information in my Presence Status)] フィールドのドロップダウンメニューで [オン (On)] に設定します。
  - [保存 (Save)] を選択します。
  - ログアウトし、[Cisco Unified Presence ユーザ オプション (Cisco Unified Presence User Options)] インターフェイスを終了します。

在席ステータスが予定表と統合されました。予定表でミーティングが予定されている場合、Cisco Jabber for Windows のステータスはミーティングが開始すると [ミーティング中 (In a meeting)] に自動的に設定されます。

**関連トピック**

[『User Guide for Cisco Unified Presence』](#)

# ユニファイドコミュニケーションのセットアップ

ユニファイドコミュニケーションをセットアップすることで、Cisco Jabber for Windows の音声機能とビデオ機能が有効になります。

## はじめる前に

- Cisco Unified Communications Manager のライセンス要件を、付属ライセンスも含めて確認します。
- Cisco Unified Communications Manager のデバイス名の設定ガイドラインを確認します。

## ソフトフォンデバイスの作成

ソフトフォンを使用することにより、Cisco Jabber for Windows はコンピュータを通じた音声とビデオの送受信が可能になります。

### SIP プロファイルの作成

ソフトフォン デバイス作成の最初の手順では、SIP プロファイルを作成し、ビデオのデスクトップ共有を有効にします。Client Service Framework (CSF) デバイス、つまりソフトフォンデバイスには、SIP プロファイルが必要です。しかし、デフォルトの SIP プロファイルを編集または設定することはできません。そのため、新たに SIP プロファイルを作成する必要があります。

#### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration) ] インターフェイスを開きます。
  - ステップ 2** [デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[SIP プロファイル (SIP Profile) ]の順に選択します。  
[SIP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List SIP Profiles) ] ウィンドウが開きます。
  - ステップ 3** 次のいずれかを実行し、新規 SIP プロファイルを作成します。
    - デフォルトの SIP プロファイルを検索し、編集可能なコピーを作成します。
    - [新規追加 (Add New) ] を選択し、新規 SIP プロファイルを作成します。
- 

#### 関連トピック

[『8.6.x: SIP Profile Configuration』](#)

[『9.0.x: SIP profile setup』](#)

## ビデオのデスクトップ共有の設定

Cisco Unified Communications Manager は、Binary Floor Control Protocol (BFCP) を通じてビデオのデスクトップ共有機能を提供します。Cisco Jabber for Windows ユーザにビデオのデスクトップ共有機能を提供するには、対象の CSF デバイスで BFCP を有効にする必要があります。



(注) Cisco Jabber for Windows は、ソフトフォンデバイスでのみビデオのデスクトップ共有をサポートします。デスクフォンデバイスでは、Cisco Jabber for Windows のビデオのデスクトップ共有を有効にできません。



**重要** ハイブリッドクラウドベース 配置では、Cisco WebEx と Cisco Unified Communications Manager の両方がデスクトップの共有機能を提供します。

- Cisco Jabber for Windows ユーザがインスタントメッセージングセッション中にデスクトップ共有セッションを開始した場合、Cisco WebEx がデスクトップ共有機能を提供します。
- Cisco Jabber for Windows ユーザが音声会議またはビデオ会議中にデスクトップ共有セッションを開始した場合、Cisco Unified Communications Manager がデスクトップ共有機能を提供します。

### 関連トピック

[「Presentation Sharing with the Binary Floor Control Protocol」](#)

### バージョン 8.6.1 でのビデオのデスクトップ共有の設定

Cisco Unified Communications Manager 8.6.1 以下でビデオのデスクトップ共有を設定する際には、SIP プロファイルで BFCP を有効にします。



(注) ビデオのデスクトップ共有を移行することはできません。Cisco Unified Communications Manager 8.6.1 でビデオのデスクトップ共有を設定して Cisco Unified Communications Manager 8.6.2 にアップグレードする場合、バージョン 8.6.2 でビデオのデスクトップ共有を設定する必要があります。

### 手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** SIP プロファイルでビデオのデスクトップ共有を次の手順に従って有効にします。
  - 個別のプロファイルに対しては次のように実行します。

- 1 [デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[SIP プロファイル (SIP Profile) ] の順に選択します。
  - 2 お使いの SIP プロファイルを選択します。
  - 3 [トランク固有の設定 (Trunk Specific Configuration) ] セクションで、[BFCP を使用するプレゼンテーション共有を許可 (Allow Presentation Sharing Using BFCP) ] を選択します。
  - 4 [保存 (Save) ] を選択します。
- 複数のプロファイルに対しては、次のように実行します。
- 1 [一括管理 (Bulk Administration) ]>[電話 (Phones) ]>[電話のエクスポート (Export Phones) ]>[すべての詳細 (All Details) ] の順に選択します。
  - 2 [一括管理 (Bulk Administration) ]>[ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files) ] の順に選択し、エクスポートされた CSV ファイルをダウンロードします。
  - 3 任意のエディタで CSV ファイルを開きます。
  - 4 CSV ファイルに [BFCP を使用するプレゼンテーション共有を許可 (Allow presentation sharing using BFCP) ] という名前の列を追加します。
  - 5 すべての必要なデバイスで、この列の値を Y に設定します。
  - 6 CSV ファイルを保存します。
  - 7 [一括管理 (Bulk Administration) ]>[電話 (Phones) ]>[電話の挿入 (Insert Phones) ] の順に選択します。
  - 8 [既存の設定の上書き (Override the existing configuration) ] オプションを選択します。
  - 9 CSV ファイルをインポートします。
  - 10 [今すぐ実行 (Run Immediately) ] を選択します。
  - 11 [送信 (Submit) ] を選択します。

### バージョン 8.6.2 でのビデオのデスクトップ共有の設定

Cisco Unified Communications Manager 8.6.2 以降でビデオのデスクトップ共有を設定するには、COP ファイルを適用して SIP プロファイルで BFCP を有効にする必要があります。COP ファイルである `cmterm-bfcp-e.8-6-2.cop.sgn` は、Cisco Jabber for Windows 管理パッケージの一部として含まれています。

#### 手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2 `cmterm-bfcp-e.8-6-2.cop.sgn` をアップロードし、適用します。
- ステップ 3 次のようにサーバを再起動します。

- a) [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified CM Administration) ] インターフェイスを開きます。
- b) [設定 (Settings) ] > [バージョン (Version) ] の順で選択します。
- c) [リスタート (Restart) ] を選択します。
- d) この手順をクラスタの各ノードで繰り返します。最初にプレゼンテーションサーバで実行します。

**ステップ 4** SIP プロファイルでビデオのデスクトップ共有を次の手順に従って有効にします。

- 個別のプロファイルに対しては次のように実行します。
  - 1 [デバイス (Device) ] > [デバイスの設定 (Device Settings) ] > [SIP プロファイル (SIP Profile) ] の順に選択します。
  - 2 お使いの SIP プロファイルを選択します。
  - 3 [トランク固有の設定 (Trunk Specific Configuration) ] セクションで、[BFCP を使用するプレゼンテーション共有を許可 (Allow Presentation Sharing Using BFCP) ] を選択します。
  - 4 [保存 (Save) ] を選択します。
- 複数のプロファイルに対しては、次のように実行します。
  - 1 [一括管理 (Bulk Administration) ] > [電話 (Phones) ] > [電話のエクスポート (Export Phones) ] > [すべての詳細 (All Details) ] の順に選択します。
  - 2 [一括管理 (Bulk Administration) ] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files) ] の順に選択し、エクスポートされた CSV ファイルをダウンロードします。
  - 3 任意のエディタで CSV ファイルを開きます。
  - 4 CSV ファイルに [BFCP を使用するプレゼンテーション共有を許可 (Allow presentation sharing using BFCP) ] という名前の列を追加します。
  - 5 すべての必要なデバイスで、この列の値を Y に設定します。
  - 6 CSV ファイルを保存します。
  - 7 [一括管理 (Bulk Administration) ] > [電話 (Phones) ] > [電話の挿入 (Insert Phones) ] の順に選択します。
  - 8 [既存の設定の上書き (Override the existing configuration) ] オプションを選択します。
  - 9 CSV ファイルをインポートします。
  - 10 [今すぐ実行 (Run Immediately) ] を選択します。
  - 11 [送信 (Submit) ] を選択します。

## CSF デバイスの作成

CSF デバイスは Cisco Jabber for Windows にソフトフォン 機能を提供します。

## 手順

- 
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration) ] インターフェイスを開きます。
  - ステップ 2 [デバイス (Device) ] > [電話 (Phone) ] を選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones) ] ウィンドウが開きます。
  - ステップ 3 [新規追加 (Add New) ] を選択します。
  - ステップ 4 [電話のタイプ (Phone Type) ] ドロップダウンリストから [Cisco Unified Client Services Framework] を選択し、続いて [次へ (Next) ] を選択します。
  - ステップ 5 [電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウで設定を適切に指定します。  
[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウの設定の詳細については、Cisco Unified Communications Managerのマニュアルを参照してください。
  - ステップ 6 [SIP プロファイル (SIP Profile) ] ドロップダウンリストでビデオのデスクトップ共有を有効にした SIP プロファイルを選択してください。
  - ステップ 7 [保存 (Save) ] を選択します。  
デバイスが正常に追加されたとのメッセージが表示されます。[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウで [割り当て情報 (Association Information) ] セクションが利用可能になります。
- 

## 次の作業

デバイスに電話番号を追加し、設定を適用します。

## 関連トピック

[「Phone Configuration Settings」](#)

## デバイスに電話番号を追加する

Cisco Unified Communications Manager で、デバイスに電話番号を追加する必要があります。このトピックでは、デバイスの作成後に [デバイス (Device) ] > [電話 (Phone) ] メニューオプションを使用して電話番号を追加する手順について説明します。このメニューオプションから表示されるのは、電話機モデルまたはCTIルートポイントに適用される設定のみです。電話番号を設定するためのさまざまなオプションについては、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

## 手順

- 
- ステップ 1 [電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information) ] セクションに移動します。
  - ステップ 2 [新規 DN を追加 (Add a new DN) ] を選択します。

[電話番号設定 (Directory Number Configuration) ] ウィンドウが開きます。

- ステップ 3** [電話番号 (Directory Number) ] フィールドで、電話番号を指定します。
- ステップ 4** その他に必要な設定があれば、それらをすべて指定します。
- ステップ 5** 次の手順に従って、エンドユーザに電話番号を関連付けます。
- [回線に関連付けられているユーザ (Users Associated with Line) ] セクションに移動します。
  - [エンドユーザの関連付け (Associate End Users) ] を選択します。  
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users) ] ダイアログボックスが開きます。
  - [ユーザを次の条件で検索 (Find User where) ] フィールドで適切なフィルタを指定した後、[検索 (Find) ] を選択してユーザのリストを取得します。
  - 対象のユーザをリストから選択します。
  - [選択項目の追加 (Add Selected) ] を選択します。  
選択されたユーザがボイスメールプロファイルに追加されます。
- ステップ 6** [保存 (Save) ] を選択します。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config) ] を選択します。  
[設定の適用 (Apply Configuration) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 8** [設定の適用 (Apply Configuration) ] ウィンドウに表示されるプロンプトに従って設定を適用します。

#### 関連トピック

[「8.6.x: Directory Number Configuration Settings」](#)

[「9.0.x: About directory number setup」](#)

## デスクフォン デバイスの作成

Cisco Jabber for Windows ユーザは自分のコンピュータを使ってデスクフォンをコントロールし、音声通話を発信できます。このトピックでは、Cisco Unified Communications Manager でのデスクフォン デバイスの作成方法について説明します。

#### 手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [デバイス (Device) ] > [電話 (Phone) ] を選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [新規追加 (Add New) ] を選択します。
- ステップ 4** [電話のタイプ (Phone Type) ] ドロップダウンリストから適切なデバイスを選択し、続いて [次へ (Next) ] を選択します。



[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウが開きます。

- ステップ 5** [デバイス情報 (Device Information) ] セクションで次の手順を実行します。
- [説明 (Description) ] フィールドに分かりやすい説明を入力します。  
Cisco Jabber for Windows はデバイスの説明をユーザに表示します。 Cisco Jabber for Windows ユーザが同じモデルのデバイスを複数所有している場合、説明によって複数のデバイスを区別することができます。
  - [CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI) ] を選択します。  
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI) ] を選択しない場合は、Cisco Jabber for Windows ユーザはデスクフォンを制御できません。
- ステップ 6** 次の手順を実行し、デスクフォンのビデオ機能を有効にします。
- [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout) ] セクションを探します。
  - [ビデオ機能 (Video Capabilities) ] ドロップダウンリストから [有効 (Enabled) ] を選択します。  
デスクフォン ビデオの詳細については、「デスクフォン ビデオの設定」を参照してください。
- ステップ 7** 必要に応じて、[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウのその他の設定も指定します。  
[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウの設定の詳細については、Cisco Unified Communications Managerのマニュアルを参照してください。
- ステップ 8** [保存 (Save) ] を選択します。  
デバイスが正常に追加されたとのメッセージが表示されます。 [電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウで [割り当て情報 (Association Information) ] セクションが利用可能になります。

---

### 次の作業

デバイスに電話番号を追加し、設定を適用します。

### 関連トピック

[「Phone Configuration Settings」](#)

## デスクフォン ビデオの設定

デスクフォン ビデオ機能を使用すると、ユーザは Cisco Jabber for Windows を介してコンピュータ上のデスクフォンデバイスに転送されたビデオを受信することができます。

### デスクフォン ビデオを設定する

デスクフォン ビデオを設定する手順は次のとおりです。

- 1 コンピュータをデスクフォン デバイス上のコンピュータ ポートへ物理的に接続します。  
Cisco Jabber for Windows によってデスクフォン デバイスへの接続を確立できるようにするためには、そのデバイスに対してコンピュータをコンピュータ ポート経由で物理的に接続する必要

があります。デスクフォン デバイスへのワイヤレス接続によりデスクフォン ビデオ機能を使用することはできません。

- 2 Cisco Unified Communications Manager の [電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウで、デスクフォン デバイスのビデオ機能を有効にします。

手順については、「デスクフォン デバイスの作成」を参照してください。

- 3 コンピュータ上に Cisco Medianet をインストールします。

Cisco Medianet に用意されているドライバにより、Cisco Jabber for Windows では以下のような処理を行うことができます。

- デスクフォン デバイスの検出。
- CAST プロトコルによるデスクフォン デバイスへの接続の確立と維持。

### デスクフォン ビデオでの考慮事項

Cisco Jabber for Windows ユーザに対してデスクフォン ビデオ機能をプロビジョニングする前に、以下の考慮事項および制限事項を確認してください。

- Cisco Unified IP Phone 9971 など、ビデオカメラを接続したデバイスでは、デスクフォン ビデオ機能を使用することはできません。
- CTI をサポートしていないデバイスでは、デスクフォン ビデオ機能を使用することはできません。
- デスクフォン ビデオでは、BFCP プロトコルを使用したビデオデスクトップ共有はサポートされていません。
- SCCP を使用するエンドポイントでビデオの受信のみを行うことはできません。SCCP エンドポイントでは、ビデオの送信と受信を行う必要があります。SCCP エンドポイントからビデオが送信されないインスタンスでは、コールが音声のみとなります。

## デバイスに電話番号を追加する

Cisco Unified Communications Manager で、デバイスに電話番号を追加する必要があります。このトピックでは、デバイスの作成後に [デバイス (Device) ] > [電話 (Phone) ] メニュー オプションを使用して電話番号を追加する手順について説明します。このメニュー オプションから表示されるのは、電話機モデルまたは CTI ルート ポイントに適用される設定のみです。電話番号を設定するためのさまざまなオプションについては、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1 [電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information) ] セクションに移動します。
  - ステップ 2 [新規 DN を追加 (Add a new DN) ] を選択します。

[電話番号設定 (Directory Number Configuration) ] ウィンドウが開きます。

**ステップ 3** [電話番号 (Directory Number) ] フィールドで、電話番号を指定します。

**ステップ 4** その他に必要な設定があれば、それらをすべて指定します。

**ステップ 5** 次の手順に従って、エンドユーザに電話番号を関連付けます。

a) [回線に関連付けられているユーザ (Users Associated with Line) ] セクションに移動します。

b) [エンドユーザの関連付け (Associate End Users) ] を選択します。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users) ] ダイアログボックスが開きます。

c) [ユーザを次の条件で検索 (Find User where) ] フィールドで適切なフィルタを指定した後、[検索 (Find) ] を選択してユーザのリストを取得します。

d) 対象のユーザをリストから選択します。

e) [選択項目の追加 (Add Selected) ] を選択します。

選択されたユーザがボイスメール プロファイルに追加されます。

**ステップ 6** [保存 (Save) ] を選択します。

**ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config) ] を選択します。

[設定の適用 (Apply Configuration) ] ウィンドウが開きます。

**ステップ 8** [設定の適用 (Apply Configuration) ] ウィンドウに表示されるプロンプトに従って設定を適用します。

#### 関連トピック

[「8.6.x: Directory Number Configuration Settings」](#)

[「9.0.x: About directory number setup」](#)

## ビデオ レート適合の有効化

Cisco Jabber for Windows はビデオ レート適合を利用し、最適なビデオ品質を調整します。ビデオ レート適合は、ネットワークの状態に合わせてビデオ品質を動的に向上または低下させます。

ビデオ レート適合を使用するには、Cisco Unified Communications Manager で Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) を有効にする必要があります。



(注) ソフトフォンデバイスでは、デフォルトでRTCPが有効になっています。しかし、デスクフォンデバイスでRTCPを有効にする必要があります。

### 共通の電話プロファイルに対する RTCP の有効化

共通の電話プロファイルで RTCP を有効にし、そのプロファイルを使用するすべてのデバイスでビデオ レート適合を有効にできます。

## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [デバイス (Device) ]>[デバイスの設定 (Device Settings) ]>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile) ] の順に選択します。  
[共通の電話プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Common Phone Profiles) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [共通の電話プロファイルを次の条件で検索 (Find Common Phone Profile where) ] フィールドで対象のフィルタを指定し、[検索 (Find) ] を選択してプロファイルの一覧を取得します。
- ステップ 4** 対象のプロファイルを一覧から選択します。  
[共通の電話プロファイルの設定 (Find and List Common Phone Profiles) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 5** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout) ] セクションを探します。
- ステップ 6** [RTCP] ドロップダウン リストから [有効 (Enabled) ] を選択します。
- ステップ 7** [保存 (Save) ] を選択します。
- 

## 関連トピック

[『8.6.x: Common Phone Profile Configuration』](#)

[『9.0.x: Common phone profile setup』](#)

## デバイス設定に対する RTCP の有効化

共通の電話プロファイルの代わりに、特定のデバイス設定で RTCP を有効化できます。共通の電話プロファイルで指定したすべての設定は、特定のデバイス設定で上書きされます。

## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [デバイス (Device) ]>[電話 (Phone) ] を選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [電話を次の条件で検索 (Find Phone where) ] フィールドに適切なフィルタを指定し、[検索 (Find) ] を選択して電話の一覧を取得します。
- ステップ 4** 対象の電話を一覧から選択します。  
[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 5** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout) ] セクションを探します。
- ステップ 6** [RTCP] ドロップダウン リストから [有効 (Enabled) ] を選択します。
- ステップ 7** [保存 (Save) ] を選択します。
-

### 関連トピック

[『8.6.x: Phone Configuration Settings』](#)

[『9.0.x: Phone setup』](#)

## CTI ゲートウェイのセットアップ

Cisco Jabber for Windows は、Cisco Unified Communications Manager と通信してデスクフォン制御などの機能を実行するには、CTI ゲートウェイが必要です。

### CTI ゲートウェイ サーバの追加

CTI ゲートウェイのセットアップの最初の手順では、Cisco Unified Presence に CTI ゲートウェイサーバを追加します。

#### 手順

- 
- ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration) ] インターフェイスを開きます。
  - ステップ 2 [アプリケーション (Application) ] > [Cisco Jabber] > [CTI ゲートウェイ サーバ (CTI Gateway Server) ] の順に選択します。  
(注) Cisco Unified Presence のバージョンによっては、パスは次のようになります。[アプリケーション (Application) ] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイサーバ (CTI Gateway Server) ]。  
[CTI ゲートウェイ サーバの検索と一覧表示 (Find and List CTI Gateway Servers) ] ウィンドウが開きます。
  - ステップ 3 [新規追加 (Add New) ] を選択します。  
[CTI ゲートウェイ サーバの設定 (CTI Gateway Server Configuration) ] ウィンドウが開きます。
  - ステップ 4 [CTI ゲートウェイ サーバの設定 (CTI Gateway Server Configuration) ] ウィンドウで、必要な詳細情報を指定します。
  - ステップ 5 [保存 (Save) ] を選択します。
- 

### 関連トピック

[「Configuring CTI Gateway Server Names and Addresses」](#)

### CTI ゲートウェイ プロファイルの作成

CTI ゲートウェイ サーバの追加後は、CTI ゲートウェイ プロファイルを作成し、サーバをプロフィールに追加する必要があります。

## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application) ]>[Cisco Jabber]>[CTI ゲートウェイ プロファイル (CTI Gateway Profile) ] の順に選択します。
- (注) Cisco Unified Presence のバージョンによっては、パスは次のようになります。[アプリケーション (Application) ]>[Cisco Unified Personal Communicator]>[CTI ゲートウェイ プロファイル (CTI Gateway Profile) ]。
- [CTI ゲートウェイ プロファイルの設定 (CTI Gateway Profile Configuration) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [CTI ゲートウェイ プロファイルの設定 (CTI Gateway Profile Configuration) ] ウィンドウで、必要な詳細情報を指定します。
- ステップ 4** [プロファイルにユーザを追加 (Add Users to Profile) ] を選択し、対象ユーザをプロファイルに追加します。
- ステップ 5** [保存 (Save) ] を選択します。
- 

## 関連トピック

[「Creating CTI Gateway Profiles」](#)

## ユーザの関連付けに関する設定

Cisco Unified Communications Manager では、ユーザを ソフトフォン と デスクフォン デバイス と 関連付ける必要があります。 デバイスをユーザと関連付けると、ユーザはデバイスにアクセスし、音声通話やビデオ通話の着信や送信ができるようになります。

ユーザとデバイスとの関連付けに加え、ユーザを適切なユーザグループに割り当てる必要があります。

## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [ユーザ管理 (User Management) ]>[エンドユーザ (End User) ] の順に選択します。  
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [ユーザを次の条件で検索 (Find User where) ] フィールドで適切なフィルタを指定した後、[検索 (Find) ] を選択してユーザのリストを取得します。
- ステップ 4** 対象のユーザをリストから選択します。

[エンド ユーザの設定 (End User Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 5** [デバイス情報 (Device Information) ] セクションを探します。
- ステップ 6** [デバイスの割り当て (Device Association) ] を選択します。  
[ユーザ デバイス割り当て (User Device Association) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 7** ユーザを割り当てるデバイスを選択します。
- ステップ 8** [選択/変更の保存 (Save Selected/Changes) ] を選択します。
- ステップ 9** [ユーザ管理 (User Management) ] > [エンド ユーザ (End User) ] の順に選択し、[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users) ] ウィンドウに戻ります。
- ステップ 10** 一覧から同じユーザを探し、選択します。  
[エンド ユーザの設定 (End User Configuration) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 11** [権限情報 (Permissions Information) ] セクションを探します。
- ステップ 12** [ユーザ グループに追加 (Add to User Group) ] を選択します。  
[ユーザ グループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups) ] ダイアログボックスが開きます。
- ステップ 13** ユーザを割り当てるグループを選択します。  
ユーザを、少なくとも次のグループに割り当てる必要があります。
- Standard CCM End Users
  - Standard CTI Enabled
- 電話機のモデルによっては、次のグループが追加が必要となります。
- Cisco Unified IP Phone 9900 または 8900 シリーズでは、[標準 CTI による接続時の転送および会議をサポートする電話の制御 (Standard CTI Allow Control of Phones supporting Connected Xfer and conf) ] を選択します。
  - Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズでは、[標準 CTI によるロールオーバー モードをサポートする電話の制御 (Standard CTI Allow Control of Phones supporting Rollover Mode) ] を選択します。
- ステップ 14** [選択項目の追加 (Add Selected) ] を選択します。  
[ユーザ グループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups) ] ウィンドウが終了します。
- ステップ 15** [エンド ユーザの設定 (End User Configuration) ] ウィンドウで [保存 (Save) ] を選択します。

## デバイスのリセット

ソフトフォンとデスクフォンの追加後にデバイスをリセットし、それらのデバイスにユーザを割り当てます。

## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [デバイス (Device) ] > [電話 (Phone) ] を選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [電話を次の条件で検索 (Find Phone where) ] フィールドに適切なフィルタを指定し、[検索 (Find) ] を選択してデバイスの一覧を取得します。
- ステップ 4** 対象のデバイスを一覧から選択します。  
[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 5** [割り当て情報 (Association Information) ] セクションを探します。
- ステップ 6** 対象の電話番号設定を選択します。  
[電話番号設定 (Directory Number Configuration) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 7** [リセット (Reset) ] を選択します。  
[デバイスリセット (Device Reset) ] ダイアログボックスが開きます。
- ステップ 8** [リセット (Reset) ] を選択します。
- ステップ 9** [閉じる (Close) ] を選択して、[デバイスリセット (Device Reset) ] ダイアログボックスを閉じます。
- 

## CCMCIP プロファイルの作成

Cisco Jabber for Windows では、Cisco Unified Communications Manager からのデバイス設定の取得に CCMCIP プロファイルが必要です。

## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application) ] > [Cisco Jabber] > [CCMCIP プロファイル (CCMCIP Profile) ] の順に選択します。  
(注) Cisco Unified Presence のバージョンによっては、パスは次のようになります。[アプリケーション (Application) ] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CCMCIP プロファイル (CCMCIP Profile) ]。  
[CCMCIP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List CCMCIP Profiles) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [新規追加 (Add New) ] を選択します。



[CCMCIP プロファイルの設定 (CCMCIP Profile Configuration) ] ウィンドウが開きます。

- ステップ 4** CCMCIP プロファイルの設定の詳細を次のように指定します。
- プロファイルの名前を [名前 (Name) ] フィールドに指定します。
  - プライマリ Cisco Unified Communications Manager インスタンスのホスト名または IP アドレスを [プライマリ CCMCIP ホスト (Primary CCMCIP Host) ] フィールドに指定します。
  - バックアップ Cisco Unified Communications Manager インスタンスのホスト名または IP アドレスを [バックアップ CCMCIP ホスト (Backup CCMCIP Host) ] フィールドに指定します。
  - [サーバ証明書の確認 (Server Certificate Verification) ] はデフォルト値のままとします。
- ステップ 5** CCMCIP プロファイルに次のようにユーザを追加します。
- [プロファイルにユーザを追加 (Add Users to Profile) ] を選択します。  
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users) ] ダイアログボックスが開きます。
  - [ユーザを次の条件で検索 (Find User where) ] フィールドで適切なフィルタを指定した後、[検索 (Find) ] を選択してユーザのリストを取得します。
  - 対象のユーザをリストから選択します。
  - [選択項目の追加 (Add Selected) ] を選択します。  
選択されたユーザが CCMCIP プロファイルに追加されます。
- ステップ 6** [保存 (Save) ] を選択します。
- 

#### 関連トピック

[「Configuring CCMCIP Profiles」](#)

## ボイスメールのセットアップ

ボイスメールをセットアップすることで、Cisco Jabber for Windows ユーザはボイスメールメッセージを受信し、音声通話の着信をボイスメールサービスにリダイレクトすることができます。ボイスメールのセットアップタスクの一環としてメールストアを設定し、Cisco Jabber for Windows で表示によるボイスメールを有効にできます。

## Cisco Unity Connection の設定

このタスクは、Cisco Jabber for Windows を使用してボイスメール用の Cisco Unity Connection の設定に必要なタスクの高レベルの概要を提供します。配置固有の設定タスクの詳細については、対応する Cisco Unity Connection のマニュアルを参照してください。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection で対応するユーザ プロファイルを作成します。
- ステップ 2** ユーザに IMAP アクセスを提供します。
- a) Cisco Unity Connection 管理インターフェイスを開きます。
  - b) [サービス クラス (Class of Service) ] を選択します。  
[サービス クラスの編集 (Edit Class of Service) ] ウィンドウが開きます。
  - c) [ライセンスされた機能 (Licensed Features) ] セクションを探します。
  - d) [IMAP クライアントやシングル インボックスを使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Voice Mail Using an IMAP Client and/or Single Inbox) ] を選択します。
  - e) [メッセージ本文へのアクセスを IMAP ユーザに許可する (Allow IMAP Users to Access Message Bodies) ] を選択します。
  - f) [保存 (Save) ] を選択します。
- 

## 関連トピック

[「Edit Class of Service」](#)

# ボイスメール サーバを追加する

Cisco Unified Presence 上でボイスメール サーバを追加する手順は次のとおりです。

## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application) ] > [Cisco Jabber] > [ボイスメール サーバ (Voicemail Server) ] を選択します。
- (注) Cisco Unified Presence の一部のバージョンでは、上記のメニュー パスの代わりに [アプリケーション (Application) ] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ボイスメール サーバ (Voicemail Server) ] を選択します。
- [ボイスメールサーバの検索と一覧表示 (Find and List Voicemail Servers) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [新規追加 (Add New) ] を選択します。

[ボイスメール サーバの設定 (Voicemail Server Configuration) ] ウィンドウが開きます。

- ステップ 4 [サーバタイプ (Server Type) ] ドロップダウン リストから [Unity Connection] を選択します。
  - ステップ 5 [ボイスメール サーバの設定 (Voicemail Server Configuration) ] ウィンドウで、必要な詳細情報を指定します。
  - ステップ 6 [保存 (Save) ] を選択します。
- 

#### 関連トピック

[「Configuring Voicemail Server Names and Addresses on Cisco Unified Presence」](#)

## メールストアの作成

このタスクの手順を実行し、Cisco Unified Presence にメールストアを作成します。

#### 手順

- 
- ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration) ] インターフェイスを開きます。
  - ステップ 2 [アプリケーション (Application) ] > [Cisco Jabber][メールストア (Mailstore) ] の順に選択します。  
(注) Cisco Unified Presence のバージョンによっては、パスは次のようになります。[アプリケーション (Application) ] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [メールストア (Mailstore) ]。  
[メールストア サーバの検索と一覧表示 (Find and List Mailstore Servers) ] ウィンドウが開きます。
  - ステップ 3 [新規追加 (Add New) ] を選択します。  
[メールストアの設定 (Mailstore Configuration) ] ウィンドウが開きます。
  - ステップ 4 [メールストアの設定 (Mailstore Configuration) ] ウィンドウで必要な詳細情報を指定します。
  - ステップ 5 [保存 (Save) ] を選択します。
- 

#### 関連トピック

[「Configuring Mailstore Server Names and Addresses on Cisco Unified Presence」](#)

## ボイスメール プロファイルの作成

ボイスメールサーバの追加後に、ボイスメールプロファイルを作成し、プロファイルにサーバを追加する必要があります。

## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration) ] インターフェイスを開きません。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application) ] > [Cisco Jabber] > [ボイスメール プロファイル (Voicemail Profile) ] の順に選択します。
- (注) Cisco Unified Presence のバージョンによっては、パスは次のようになります。 [アプリケーション (Application) ] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ボイスメール プロファイル (Voicemail Profile) ]。
- [ボイスメール プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Voicemail Profiles) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [新規追加 (Add New) ] を選択します。
- [ボイスメール プロファイルの設定 (Voicemail Profile Configuration) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 4** [ボイスメール プロファイルの設定 (Voicemail Profile Configuration) ] ウィンドウで、必要な詳細情報を指定します。
- ステップ 5** ボイスメール プロファイルに次のようにユーザを追加します。
- a) [プロフィールにユーザを追加 (Add Users to Profile) ] を選択します。  
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users) ] ダイアログボックスが開きます。
  - b) [ユーザを次の条件で検索 (Find User where) ] フィールドで適切なフィルタを指定した後、[検索 (Find) ] を選択してユーザのリストを取得します。
  - c) 対象のユーザをリストから選択します。
  - d) [選択項目の追加 (Add Selected) ] を選択します。  
選択されたユーザがボイスメール プロファイルに追加されます。
- ステップ 6** [保存 (Save) ] を選択します。
- 

## 関連トピック

[「Creating Voicemail Profiles on Cisco Unified Presence」](#)

## 取得とリダイレクションの設定

取得とリダイレクションを使用し、Cisco Jabber for Windows はクライアント インターフェイスからボイスメールメッセージにアクセスし、音声通話の着信をボイスメールサービスにリダイレクトすることができます。ボイスメールの取得とリダイレクションは Cisco Unified Communications Manager で設定します。

## 手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** ボイスメールパイロットを設定します。
- [拡張機能 (Advanced Features) ]>[ボイスメール (Voice Mail) ]>[ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot) ] の順に選択します。  
[ボイスメールパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Pilots) ] ウィンドウが開きます。
  - [新規追加 (Add New) ] を選択します。  
[ボイスメールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration) ] ウィンドウが開きます。
  - [ボイスメールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration) ] ウィンドウで必要な詳細情報を指定します。
  - [保存 (Save) ] を選択します。
- ステップ 3** ボイスメールパイロットをボイスメールプロファイルに追加します。
- [拡張機能 (Advanced Features) ]>[ボイスメール (Voice Mail) ]>[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile) ] の順に選択します。  
[ボイスメールプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Profiles) ] ウィンドウが開きます。
  - [次のボイスメールプロファイル名でボイスメールプロファイルを検索 (Find Voice Mail Profile where Voice Mail Profile Name) ] フィールドに適切なフィルタを指定し、[検索 (Find) ] を選択してプロファイルの一覧を取得します。
  - 対象のプロファイルを一覧から選択します。  
[ボイスメールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration) ] ウィンドウが開きます。
  - [ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot) ] ドロップダウンリストでボイスメールパイロットを選択します。
  - [保存 (Save) ] を選択します。
- ステップ 4** 電話番号設定でボイスメールプロファイルを指定します。
- [デバイス (Device) ]>[電話 (Phone) ] を選択します。  
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones) ] ウィンドウが開きます。
  - [電話を次の条件で検索 (Find Phone where) ] フィールドに適切なフィルタを指定し、[検索 (Find) ] を選択してデバイスの一覧を取得します。
  - 対象のデバイスを一覧から選択します。  
[電話の設定 (Phone Configuration) ] ウィンドウが開きます。
  - [割り当て情報 (Association Information) ] セクションを探します。
  - 適切なデバイス番号を選択します。  
[電話番号設定 (Directory Number Configuration) ] ウィンドウが開きます。
  - [電話番号の設定 (Directory Number Settings) ] セクションを探します。

- g) [ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile) ] ドロップダウン リストからボイスメールプロファイルを選択します。
- h) [保存 (Save) ] を選択します。

[『8.6.x: Cisco Voice-Mail Pilot Configuration』](#)

[『8.6.x: Voice-Mail Profile Configuration』](#)

[『9.0.x: Cisco voice-mail pilot setup』](#)

[『9.0.x: Voice-mail profile setup』](#)

## Cisco WebEx Meeting Center と統合する

Cisco WebEx Meeting Center は、Cisco Jabber for Windows でのミーティング サービスと会議サービスを提供します。

設定可能なさまざまなタイプの Cisco WebEx Meeting Center の配置について説明します。認証のセットアップ方法と、Cisco Jabber for Windows と Cisco WebEx Meeting Center の通信を有効にする方法についてはこちらを参照してください。

## Cisco WebEx Meeting Center との統合

このリリースでは、Cisco Jabber for Windows のオンプレミス展開における Cisco WebEx Meeting Center との統合には、次の2つのタイプがあります。

- クラウドベース 統合
- ハイブリッドクラウドベース統合

### クラウドベース統合

クラウドベース統合とは、Cisco WebEx Meeting Center からCisco Jabber for Windows に対して次のようなサービスが実現される環境のことです。

- 参加者のチャット リストや参加者リストなどのデータ
- 音声機能およびビデオ機能

### ハイブリッドクラウドベース統合

ハイブリッドクラウドベース統合とは、次のような特徴を持った環境のことです。

- Cisco WebEx Meeting Center により、参加者のチャット リストや参加者リストなどのデータが提供される。
- 会議ブリッジにより、音声機能およびビデオ機能が実現される。

## Cisco WebEx Meeting Center による認証

Cisco Jabber for Windows でサポートされている Cisco WebEx Meeting Center による認証のタイプは次のとおりです。

### 直接認証

ユーザ クレデンシャルを Cisco Jabber for Windows から Cisco WebEx Meeting Center に直接渡すことができます。

直接認証を有効にする手順は次のとおりです。

- 1 Cisco WebEx 管理ツールを使用して、Cisco WebEx Meeting Center 用のユーザ アカウントを作成します。

直接認証の場合は、Cisco WebEx Meeting Center でユーザ クレデンシャルの確認を行う必要があります。ユーザ クレデンシャルはユーザ アカウント内に保持されており、Cisco Jabber for Windows での認証の際には Cisco WebEx Meeting Center によりその確認が行われます。

- 2 Cisco WebEx Meeting Center のユーザ クレデンシャルを Cisco Jabber for Windows に設定します。

詳細は、「*Cisco WebEx Meeting Center のクレデンシャルの提供*」を参照してください。

詳細は、「*Overview of Loosely Coupled Integration*」を参照してください。

### アイデンティティ プロバイダーによる認証

Cisco Jabber for Windows では、Cisco WebEx Meeting Center からアイデンティティ プロバイダーへ認証をリダイレクトすることができます。

アイデンティティ プロバイダーによる認証を有効にする手順は次のとおりです。

- 1 それぞれの目的に応じたアイデンティティ プロバイダーを設定します。

Cisco Jabber for Windows ユーザが Cisco WebEx Meeting Center による認証を受けようとする、その認証は Cisco Jabber for Windows からアイデンティティ プロバイダーにリダイレクトされます。アイデンティティ プロバイダーでは、クレデンシャルの確認が行われた後、Cisco Jabber for Windows へ認証トークンが返されます。さらにそのトークンは Cisco Jabber for Windows から Cisco WebEx Meeting Center へ渡されます。これで認証プロセスは完了します。

- 2 Cisco WebEx Meeting Center のユーザ クレデンシャルを Cisco Jabber for Windows に設定します。

詳細は、「*Cisco WebEx Meeting Center のクレデンシャルの提供*」を参照してください。

Cisco WebEx Messenger サービスによるユーザ アイデンティティ管理についての詳細は、「*Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications*」を参照してください。

### 関連トピック

[「Overview of Loosely Coupled Integration」](#)

[「Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications」](#)

[「Overview of Loosely Coupled Integration」](#)

[「Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications」](#)

## Cisco WebEx Meeting Center のクレデンシャルの提供

Cisco Jabber for Windows に Cisco WebEx Meeting Center のクレデンシャルを提供するには、次のメソッドの 1 つを選択します。

- Cisco Jabber for Windows ユーザは [オプション (Options) ] ウィンドウで Cisco WebEx Meeting Center のクレデンシャルを個別に指定します。
- Cisco Unified Presence で Web 会議サービスのクレデンシャルのソースを指定します。

### Cisco Jabber for Windows での Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの指定

Cisco Jabber for Windows ユーザは、[オプション (Options) ] ウィンドウの [ミーティング (Meetings) ] タブで Cisco WebEx Meeting Center のクレデンシャルを指定します。 [オプション (Options) ] ウィンドウを開くには、Cisco Jabber for Windows で [ファイル (File) ] > [オプション (Options) ] の順に選択します。

### Cisco Unified Presence でクレデンシャル ソースを指定する

このタスクの手順を実行し、Cisco Unified Presence でクレデンシャル ソースを指定します。



#### 制約事項

Cisco WebEx Meeting Center での認証でアイデンティティ プロバイダーを使用している場合、Cisco Unified Presence ではクレデンシャルのソースを指定できません。



#### 重要

Cisco Unified Presence で指定したクレデンシャルと、Cisco WebEx Meeting Center で指定したクレデンシャルを同期する仕組みはありません。

Cisco Unified Presence でクレデンシャルのソースを指定した場合、そのクレデンシャルがユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルと一致することを確認する必要があります。

たとえば、ユーザの Cisco Unified Presence クレデンシャルが、ユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致するように指定します。これにより、ユーザの Cisco Unified Presence クレデンシャルが変更されます。ユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルが変更を反映するように更新する必要があります。



## 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application) ] > [Cisco Jabber][設定 (Settings) ] の順に選択します。  
Cisco Unified Presence のバージョンによっては、パスは次のようになります。[アプリケーション (Application) ] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [設定 (Settings) ]。
- ステップ 3** [Cisco Jabber の設定 (Cisco Jabber Settings) ] セクションで、[Web 会議サービスのクレデンシャルソース (Credentials source for web conferencing service) ] ドロップダウンリストから次の 1 つを選択します。
- 未設定 (Not set)
- ユーザには、自身の Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致するクレデンシャルソースはありません。
- CUP
- ユーザの Cisco Unified Presence クレデンシャルが、各ユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルと一致します。
- ボイスメール (Voicemail)
- ユーザの Cisco Unity Connection クレデンシャルが、各ユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルと一致します。
- ステップ 4** [保存 (Save) ] を選択します。
- 

## Cisco Unified Presence で Cisco WebEx Meeting Center をセットアップ

Cisco Jabber for Windows は、Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細を Cisco Unified Presence の会議プロファイルから取得します。Cisco WebEx Meeting Center サーバを追加し、そのサーバを会議プロファイルに追加し、ユーザをプロファイルに追加する必要があります。

### 会議サーバを追加する

Cisco Unified Presence 上で会議を設定する場合は、最初に Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細情報を追加します。

## 手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration) ] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application) ] > [Cisco Jabber] > [会議サーバ (Conferencing Server) ] を選択します。  
Cisco Unified Presence の一部のバージョンでは、上記のメニューパスの代わりに [アプリケーション (Application) ] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [会議サーバ (Conferencing Server) ] を選択します。
- ステップ 3** [新規追加 (Add New) ] を選択します。  
[会議サーバの設定 (Conferencing Server Configuration) ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 4** 次の各フィールドで、Cisco WebEx Meeting Center サーバに関する詳細情報を指定します。

### 名前 (Name)

設定の名前を入力します。

### 説明 (Description)

必要であれば、説明を入力します。

### ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)

Cisco WebEx Meeting Center サーバのホスト名を指定します。

(注) IP アドレスではなく、必ずホスト名を指定してください。

### ポート (Port)

Cisco WebEx Meeting Center サーバに使用するポート番号を指定します。

### プロトコル (Protocol)

ドロップダウンリストから [HTTPS] を選択します。

### サーバタイプ (Server Type)

ドロップダウンリストから [WebEx] を選択します。

### サイト ID (Site ID)

Cisco WebEx Meeting Center のプライマリ サイト ID を指定します。

(注) [サイト ID (Site ID) ] フィールドは任意です。Cisco Jabber for Windows では、Cisco WebEx Meeting Center と統合する際、サイト ID は不要です。

パートナー ID (Partner ID)

Cisco WebEx Meeting Center の適切なパートナー ID を指定します。

(注) [パートナー ID (Partner ID)] フィールドは任意です。Cisco Jabber for Windows では、Cisco WebEx Meeting Center と統合する際、パートナー ID は不要です。

**ステップ 5** [保存 (Save)] を選択します。

---

## 会議プロファイルの作成

会議サーバの詳細を指定した後は、会議プロファイルを作成します。Cisco Jabber for Windows は Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細をプロファイルから取得し、会議機能にアクセスできるようになります。

### 手順

---

**ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きます。

**ステップ 2** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Jabber] > [会議プロファイル (Conferencing Profile)] の順に選択します。

Cisco Unified Presence のバージョンによっては、パスは次のようになります。[アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [会議プロファイル (Conferencing Profile)]。

**ステップ 3** [新規追加 (Add New)] を選択します。  
[会議プロファイルの設定 (Conferencing Profile Configuration)] ウィンドウが開きます。

**ステップ 4** 次のフィールドのプロファイルの詳細を指定します。

名前 (Name)

設定の名前を入力します。

説明 (Description)

必要であれば、説明を入力します。

プライマリ会議サーバ (Primary Conferencing Server)

ドロップダウンリストからプライマリ Cisco WebEx Meeting Center サーバを選択します。

(注) Cisco Jabber for Windows は、[プライマリ会議サーバ (Primary Conferencing Server)] ドロップダウンリストから選択したサーバのみを使用します。[バックアップ会議サーバ (Backup Conferencing Server)] ドロップダウンリストでサーバを選択する必要はありません。

#### サーバ証明書の確認 (Server Certificate Verification)

ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。

- 任意の証明書 (Any Certificate)
- 自己署名またはキーストア (Self Signed or Keystore)
- キーストアのみ (Keystore Only)

- ステップ 5** [これをシステムのデフォルト会議プロファイルに設定します (Make this the default Conferencing Profile for the system) ] チェックボックスをオンにして、このプロファイルをシステムのデフォルトに設定します。
- ステップ 6** 会議プロファイルに次のようにユーザを追加します。
- a) [プロファイル内のユーザ (Users in Profile) ] セクションで [プロファイルにユーザを追加 (Add Users to Profile) ] を選択します。  
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users) ] ダイアログボックスが開きます。
  - b) [検索 (Find) ] を選択し、ユーザの一覧を取得します。
  - c) 対象のユーザをリストから選択します。
  - d) [選択項目の追加 (Add Selected) ] を選択します。  
選択されたユーザがプロファイルに追加され、[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users) ] ダイアログボックスが閉じます。
- ステップ 7** [保存 (Save) ] を選択します。
- 

## Microsoft Office との統合に関する設定を行う

Cisco Jabber for Windows は Microsoft Office と統合することにより、Microsoft Office アプリケーションスイートの他のユーザと在席ステータスを共有することが可能になります。Microsoft Office との統合により、Cisco Jabber for Windows ユーザは他の Microsoft Office のユーザとのチャットや、音声通話やビデオ通話が簡単に行えるようになります。

## Microsoft Outlook で在席ステータスを有効にする

Cisco Jabber for Windows と Microsoft Outlook の統合を有効にするには、Microsoft Active Directory の proxyAddresses 属性の値として SIP:user@cupdomain を指定します。Cisco Jabber for Windows ユーザは Microsoft Outlook の在席かどうかを共有できるようになります。

proxyAddresses 属性は、次の方法で変更できます。

### Active Directory ユーザとコンピュータなどの Active Directory 管理ツールを使用する

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを使用し、Microsoft Windows Server 2008 以降の属性を編集できます。

### ADSchemaWizard.exe ユーティリティを使用する

ADSchemaWizard.exe ユーティリティは、Cisco.com 上の Cisco Jabber for Windows 管理パッケージから入手できます。ユーティリティは LDIF ファイルを生成します。このファイルはディレクトリを変更し、SIP:user@cupdomain という値で各ユーザの proxyAddresses 属性を追加します。

ADSchemaWizard.exe ユーティリティは、Microsoft Windows Server 2003 などの Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールの属性編集機能をサポートしないサーバで使用します。ADSIEdit などのツールを使用して、ADSchemaWizard.exe ユーティリティを使用して適用した変更を確認できます。

ADSchemaWizard.exe ユーティリティの使用には、Microsoft .NET Framework バージョン 3.5 以降が必要です。

### Microsoft Windows PowerShell でスクリプトを作成する

Microsoft Outlook でのプレゼンスを有効にするスクリプトの作成については、対応する Microsoft のマニュアルを参照してください。

次の手順を実行し、Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを使用して Microsoft Outlook で個別ユーザのプレゼンスを有効にします。

#### 手順

- 
- ステップ 1 Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを起動します。  
Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを実行するには、管理者権限が必要です。
  - ステップ 2 メニューバーで [表示 (View)] を選択し、ドロップダウン リストから [拡張機能 (Advanced Features)] オプションを選択します。
  - ステップ 3 Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールの対象ユーザに移動します。
  - ステップ 4 ユーザをダブルクリックして [プロパティ (Properties)] ダイアログボックスを開きます。
  - ステップ 5 [属性エディタ (Attribute Editor)] タブを選択します。
  - ステップ 6 [属性 (Attributes)] リストボックスで proxyAddresses 属性を探し、選択します。
  - ステップ 7 [編集 (Edit)] を選択し、[複数値文字列エディタ (Multi-valued String Editor)] ダイアログボックスを開きます。
  - ステップ 8 [追加する値 (Value to add)] テキストボックスで、値 SIP:user@cupdomain を指定します。  
例: SIP:msmith@cisco.com  
  
user@cupdomain 値はユーザのインスタントメッセージングアドレスです。cupdomain 値は、Cisco Unified Presence のドメインです。
-

Microsoft Outlook で在席ステータスを有効にする